

乳がん 高度検診・治療センター NEW 一す NO. 74

2020.7

貝塚市の乳がん検診

マンモグラフィのみで実施し、視触診を 廃止



日本の乳がんの現状は？

現在、日本人女性は生涯で10人に1人が乳がん罹患し、なお増加傾向にあります。年間では9.4万人以上が罹患し、年間1.4万人以上が乳がんで死亡します。

これまでの市町村住民の乳がん検診は？

これまでは、「問診+視触診+マンモグラフィ」で実施してきました。視触診は、乳房、乳頭及び腋窩の異常の有無を医師が診察によって判断するものであり、マンモグラフィは乳房X線撮影のことです。マンモグラフィは早期の乳がんを描出する能力が高く、早期の状態で見つけて治療することによって90%以上の乳がんが完治します。そして、視触診とマンモグラフィの併用、あるいはマンモグラフィ単独で乳がん検診を行うことで、乳がん検診を行わなかった場合に比べて、乳がんによる死亡率が20~30%減少させることができるという科学的根拠に基づいて実施されてきました。

なぜ、視触診を乳がん検診から外したのですか？

厚生労働省は、市町村住民の各がん検診の方法や成績を科学的根拠に基づいて評価し、「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」を公表しており、この指針に沿って各がん検診が実施されています。2000年以前の各市町村住民の乳がん検診は「問診+視触診」としていましたが、2000年からは「問診+視触診+マンモグラフィ」と改正し、実施されてきました。そして2016年には、「市町村住民の乳がん検診は「問診+マンモグラフィ」とし、視触診は推奨しない。仮に視触診を実施する場合は、

マンモグラフィと併用することとする。」と改正しました。

視触診を推奨しないとしたその理由は、

- ① 乳がん検診を「問診+視触診+マンモグラフィ」とした当時は、マンモグラフィ装置の整備、撮影技師や読影医師の養成研修などのマンモグラフィによる検診体制の整備が十分でない状況を考慮して、視触診を含めて行ってきた。
- ② 現在ではマンモグラフィ撮影による乳がん検診が99.1%の市町村で実施され、検診体制は整備されたと言え、視触診の必要性は薄れている。
- ③ 視触診の死亡率減少効果が十分ではなく、手技の習熟度などの精度管理にも問題が指摘されている。一方で、マンモグラフィ単独による乳がん検診には、乳がんの死亡率減少効果がある。
- ④ 欧米諸国においては、マンモグラフィに視触診を併用していない国が多く見受けられる。などが挙げられます。

これからの市町村住民の乳がん検診は？

厚生労働省の指針に従い、貝塚市では2020年度より視触診を廃止し、「問診とマンモグラフィ」のみによる乳がん検診としました。一方で2020年度現在、視触診を併用している市町村も少なくないですが、いずれは廃止の方向に向かうものと考えられます。

検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師
矢竹 秀穂



市立貝塚病院
TEL : 072-422-5865



KAZUKA